

**<ご参考>**

**アンケート内容を皆様にご覧いただけるよう公開しています。  
回答は、地盤通信 300 でお知らせした Web サイトで行ってください。**

住宅地盤に関わる業務について  
アンケート

2018 年 11 月

NPO 住宅地盤品質協会  
研究情報収集委員会

当協会の活動にご賛同ご協力いただき厚く御礼を申し上げます。また、SWS 試験方法の JIS 改正に伴うアンケートにつきましてご協力いただきありがとうございます。

さて、社会環境が日々めまぐるしく変化する中、現在の業界状況や今後の業界動向を正確にかつ素早く掴む事は大変重要と考えております。今後益々、協会員の皆様においては、業界の動きを素早く客観的に捉え企業内に速やかに対応させ反映することが不可欠となるのではないのでしょうか。そこで、まずは業界の実態を把握したいと考え、全国約 500 社の協会員の皆様にアンケートを実施させていただきます。何卒、ご理解ご協力を賜りたく存じます。

質問文と注意書きに従ってお答えください（回答時間はおよそ 15 分程度です）

- ①当てはまる選択肢をそれぞれお選びください。（択一式）
- ②該当される選択肢すべてにチェックお願いいたします。（複数回答式）
- ③集計結果につきましては、回答された協会員様の特定可能な情報や不適切な表現などは変更もしくは削除した上で発表させていただきます。

※このアンケート調査結果は住宅地盤品質協会活動以外の目的では利用いたしません。

## <ご参考>

**アンケート内容を皆様にご覧いただけるよう公開しています。**

**回答は、地盤通信 300 でお知らせした Web サイトで行ってください。**

Q1. 貴社の所在地や規模、地盤調査や地盤補強工事の件数などについてお伺いします。

Q1-1. 貴社の所在地（都道府県）をお答えください。  
( )

Q1-2. 貴社の組織についてお答えください。（択一式）

- (a) 株式会社
- (b) 有限会社
- (c) 個人
- (d) その他

Q1-3. 貴社の設立後経過年数をお答えください。（択一式）

- (a) 設立後 50 年以上
- (b) 設立後 30～50 年未満
- (c) 設立後 20～30 年未満
- (d) 設立後 10～20 年未満
- (e) 設立後 5～10 年未満
- (f) 設立後 1～5 年未満
- (g) 設立後 1 年未満

Q1-4. 貴社の社員数についてお答えください。（択一式）

- (a) 200 人以上
- (b) 100～200 人未満
- (c) 50～100 人未満
- (d) 20～50 人未満
- (e) 10～20 人未満
- (f) 5～10 人未満
- (g) 5 人未満

Q1-5. 貴社の事業全体規模についてお答えください。（択一式）

- (a) 年商 100 億円以上
- (b) 年商 50～100 億円程度
- (c) 年商 30～50 億円程度
- (d) 年商 10～30 億円程度
- (e) 年商 5～10 億円程度
- (f) 年商 1～5 億円程度
- (g) 年商 1 億円未満

Q1-6. 貴社の小規模建築物の年間、地盤調査件数及び地盤補強工事件数についてお答えください。件数をご記入ください（概算でも可）。

地盤調査件数 ( ) 件  
地盤補強工事件数 ( ) 件

### <ご参考>

アンケート内容を皆様にご覧いただけるよう公開しています。

回答は、地盤通信 300 でお知らせした Web サイトで行ってください。



Q2-4-2. 上記 Q2-4 で「(a) 自社」とお答えになった方にお伺いします。地盤調査解析において、液状化判定は実施されていますか？（択一式）

- (a) 実施する
- (b) 実施しない
- (c) 要望がある場合に限り実施する

Q2-4-3. 上記 Q2-4-2 で「(a) 実施する」とお答えになった方にお伺いします。液状化判定をどのレベルまで行っていますか？（最も多いものに○をつけてください）

- (a) 資料調査（ハザードマップ、微地形区分、液状化履歴図など）で判定する
- (b) SWS 試験結果から、液状化による被害程度を求めて判定する
- (c) SWS 試験以外の調査を別途行って、液状化による被害程度を判定する
- (d) その他（ )

Q2-4-4. 上記 Q2-4 で「(a) 自社」とお答えになった方にお伺いします。地盤調査解析において圧密沈下の検討は実施されていますか？（択一式）

- (a) 実施する
- (b) 実施しない
- (c) 要望がある場合に限り実施する

Q2-5. 貴社で最も多い地盤補強工法はどれですか？（択一式）

- (a) 表層改良
- (b) セメント系柱状改良
- (c) 小口径鋼管
- (d) 既成コンクリート杭
- (e) 木杭
- (f) 砕石
- (g) 複合地盤改良系
- (f) その他（ )

Q2-6. 貴社の地盤補強工事では性能証明工法を採用していますか？（択一式）

- (a) はい
- (b) いいえ

Q2-6-1 上記 Q2-8 で「(a) はい」とお答えになった方にお伺いします。性能証明工法をどの程度採用していますか？（択一式）

- (a) 80～100%
- (b) 60～80%未満
- (c) 40～60%未満
- (d) 20～40%未満
- (e) 0～20%未満

Q2-6-2. 上記 Q2-6 で「(a)はい」とお答えになった方にお伺いします。次のうちどの工法を採用していますか？（該当するものすべてに○を付けてください。すべての認定工法は列記せず、ある程度の工法を抽出して順不同としております。工法の記載がない場合はその他にて回答願います。）

●表層系

- ・MS工法
- ・エスミックスラリー工法
- ・コロンブス工法
- ・その他（
- ・GRRシート工法

●乾式柱状系

- ・DSP工法
- ・その他（

●柱状改良系

- ・アイマーク工法
- ・ウルトラコラム工法
- ・アスコラム工法
- ・SSコラム
- ・その他（
- ・スリーエスG工法
- ・クロスウィングコラム工法
- ・STコラム
- ・ピュアパイル（PP）工法
- ・HITS工法
- ・くし兵衛工法

●RCパイル系

- ・H-AP工法
- ・オチロック工法
- ・その他（

●鋼管回転系

- ・SMD杭
- ・SEKOスクリューパイル工法
- ・DM（ダブルメタル）工法
- ・TG-m工法
- ・その他（
- ・ニューバースパイル（I・II・III・V）工法
- ・PPG工法
- ・ $\Sigma$ -i工法
- ・アーステンダーパイル工法
- ・ETP-G工法
- ・Xpile（エックス）工法
- ・テコットパイルSR工法
- ・アルファフォースパイル工法

●木材圧入系

- ・環境パイル工法
- ・QPパイル
- ・その他（

●碎石締固め系

- ・アクパド工法
- ・その他（
- ・Hyspeed（ハイスピード）工法
- ・エコジオ工法

●合成コラム系

- ・タイガーパイル工法
- ・efコラム工法
- ・その他（
- ・しん兵衛工法
- ・ウルトラウッドコラム工法

●複合地盤改良系

- ・ピュアパイル（PP）工法
- ・その他（
- ・RES-P工法
- ・環境パイル（S）工法

Q3. 貴社の品質管理についてお伺いします。

Q3-1. 貴社は住品協基準書を業務で利用していますか？（択一式）

- (a) よく利用している
- (b) たまに利用している
- (c) 利用しない
- (d) ほとんど利用しない

Q3-1-1. 上記 Q3-1 で (a)、(b) とお答えになった方にお伺いします。基準書の主な利用目的についてお答えください。（択一式）

- (a) 業務において、調べものや問い合わせがあった際の参考書として利用している
- (b) 社内マニュアルとして利用している
- (c) 資格取得（住宅地盤技士・主任技士）時の参考書として利用している
- (d) その他（

Q3-1-2. 上記 Q3-1 で (c)、(d) とお答えになった方にお伺いします。基準書を利用しない理由についてお答えください。（択一式）

- (a) 調査や補強工事に関する内容が乏しく業務に役立たないから
- (b) 社内マニュアルなど、別の基準書を使用しているから
- (c) 性能証明工法を用いるため、その基準に準じているから
- (d) その他（

Q3-2. 住品協基準書で分かりにくい項目、理解を深めたい項目はありますか？

- (a) ある
- (b) ない

Q3-2-1. 上記 Q3-2 で「(a)はい」と回答した方のみお答えください。

- (a) わかりにくい項目  
( )
- (b) 理解を深めたい項目  
( )

Q3-3. 住品協基準書の内容で、実務上不具合をもたらす、あるいは納得できない内容はありますか？

- (a) はい
- (b) いいえ

Q3-3-1. 上記 Q3-3 で「(a)はい」と回答した方のみ、その内容をお答えください。

[ ]

Q3-4. 住宅地盤技術者認定資格試験について貴社のお考えをお答えください。(択一式)

(a) 技術者教育に役立つ為、社員に受験を奨励している

(b) 資格者がいる事でお客様の信頼を得ているので、受験を奨励している

(c) 資格があっても特段のメリットがない為、受験を奨励していない

(d) その他 ( )

Q3-5. 住宅地盤技術者認定資格試験についてご意見や要望があればお聞かせください。

[ ]

Q4. 不同沈下についてお伺いします

Q4-1. 貴社で調査・判定または施工した案件で不同沈下が生じる件数/年間はどの程度ありますか？（択一式）

- (a) 全体件数の 10%以上
- (b) 全体件数の 5～10%未満
- (c) 全体件数の 3～5%未満
- (d) 全体件数の 0～3%未満
- (e) 全体件数の 0%

Q4-2. 不同沈下が生じる場合は何年程度で発覚していますか？（択一式）

- (a) 10 年以上
- (b) 8～10 年未満
- (c) 5～8 年未満
- (d) 3～5 年未満
- (e) 0～3 年未満
- (f) 工事中

Q4-3. 不同沈下要因として最も多いと思われる項目はどれですか？（択一式）

- (a) 地盤調査不良
- (b) 判定不良
- (c) 設計不良
- (d) 施工不良
- (e) 近接工事による影響
- (f) その他（ )

Q4-3-1. 上記 Q4-3. で「(a)地盤調査不良」とお答えになった方にお伺いします。最も多いと思われる項目はどれですか？（択一式）

- (a) 測点不足
- (b) 調査機の限界（支持層など）
- (c) 土質判定不良
- (d) その他（ )

Q4-3-2. 上記 Q4-3. で「(b)判定不良」とお答えになった方にお伺いします。最も多いと思われる項目はどれですか？（択一式）

- (a) 判定者経験不足
- (b) 不確定な調査資料による判定
- (c) その他（ )

Q4-3-3. 上記 Q4-3 で「(c)設計不良」とお答えになった方にお伺いします。最も多いと思われる項目はどれですか？（択一式）

- (a) 盛土に関する見誤り
- (b) 擁壁に関する見誤り
- (c) 土質に関する見誤り
- (d) その他（ )



